

ケナフが地域産業資源として登録されました (新たな段階に入ったケナフ協議会の活動について)

ケナフ協議会会長（高知大学名誉教授）鮫島 一彦

ケナフが「地域産業資源」^{1),2)}として登録された³⁾とのうれしいニュースを喜多方市にある株式会社ハートプラザの代表取締役・高久俊秋 Takaku Toshiaki 氏からいただきました。この流れが日本全国に広がり、ひいては、世界に広がって、ケナフ協議会の最終目標である「ケナフ等植物資源利用による地球環境保全」が実現されることを願ってやみません。このところ、ケナフ協議会には新しい会員が参加し会員数が増えてきています。これは、ますます悪化する地球温暖化問題や、世界平和の問題だけでなく、日本の本来的な問題、すなわち、狭い国土面積に自然災害や人災が多い日本の宿命とも言える様々な問題に立ち向かうために、われわれの主張する、「ケナフ等植物資源利用による地球環境保全」の立場がこれまでのブーム的な理解とは異なった形で少しずつ浸透し始めたためでもあると思います。うれしいことです。

東日本大震災とそれに伴う原発事故等では、日本はもとより、世界中の人々がこれまでの世界観のみでは、人類の将来が危機的状態にあることを思い知らされました。幅広い分野の芸術家、学者、宗教家、哲学者などが被災地を訪れ、その惨状を知り、日本および世界の根本的な問題を再認識させられました。特に原発事故では、放射能の飛散による農林水産業への影響も莫大なものがありました。私も東北の被災地などを訪問してその復興を「ケナフ等の植物資源の利用」で支援したいと考えそれなりに努力してきましたが、その成果はなかなかとっていませんでした。しかし、今回の登録で、いろいろの方々のケナフを中心としたこれまでの取り組みが、国からの支援も受けられる形にもつながったと考えられ、今後さらに全国的に発展することを期待したいと思います。ケナフ協議会関係の方々の地域でも是非、ケナフを登録して、地域の活性化につなげてほしいです。



(写真上) 早朝の会津若松駅前の雪、(写真下) ホテルの朝食と雪景色

平成 29 年 2 月 8 日、早朝、Kazuhiko Sameshima 撮影



2017年2月7日から8日にかけて、私は初めて会津若松市と喜多方市を訪れました。本来の目的は上記の情報をいただいた喜多方市の株式会社ハートプラザを訪問し、高久俊秋社長と会い、現在進めている「ケナフプロジェクト」の説明を受けることでした。しかし、私にとっては、折角の初めての地域なので、有名な会津若松市の観光もすることにしました。静岡の自宅から早朝、新幹線で東京駅に出て、つばさ127号で郡山に9時過ぎには着きました。郡山から磐越西線にりましたが、すぐに雪まじりの車窓風景となり、徐行運転が続き心配しました。強風のためとの車内放送があり、なかなか進まず、どうなるのかと心配しましたが、そのうち全速力での運転となり、約20分の遅れでの会津若松駅着となりました。西日本の暖地育ち・居住の私の目の前に慣れていない真っ白な雪の世界が途中の車窓に広がった時には、あっ、シラキュウスの風景だと思いました。40年も前に家族とともに留学していたニューヨーク州立大学の紙研究所(ESPRI)での生活で見慣れた景色にそっくりでした。ほんとうにびっくりしました。

会津若松駅前のホテルに荷物を預けて、さっそく循環観光バスに乗りました。雪が降り続き、寒い日でしたが、鶴ヶ城をはじめ、会津若松市の様子を少し勉強することができました。外国からの観光客も大勢でした。鶴ヶ城では、日本最古のプールで水練を行ったりして、若者の教育に熱心であったことなど、日新館の歴史も勉強しました。野口英世関係は時間切れで勉強できませんでした。またの機会には是非こちらも勉強したいと思いました。下記の写真のように、会津若松駅前の雪景色は私にとってはアメリカ・ニューヨーク州・シラキュウスの思い出と重なり、非常に有意義なものになりました。

喜多方市には翌日の2月8日、会津若松駅で、凸版印刷の方々と合流して訪問することになりました。高久社長には、喜多方駅まで出迎えをしてもらいました。まずは、有名な喜多方市のラーメンをごちそうになりました。ケナフと同様にこのラーメンも地域産業資源として登録されています。

高久社長からは、現在行っているケナフプロジェクトの概要を説明してもらい、会社の実験施設等も見学させてもらいました。最近、上記のケナフの「地域産業資源」としての福島県での追加指定の資料とともに、この説明を受けたケナフプロジェクトの報告書（平成28年度地域復興実用化開発促進事業、補助事業の成果）も送ってもらいました。その内容については、追ってまた紹介できればと思います。ご期待ください。

世界的にもいろいろの地域資源を活用して、持続可能な地域産業の促進を図ろうとする動きが活発化しています。その方向性はこれまでの資源使いつくし型の産業構造からの脱却を各種のイノベーションを通して行い、人類の生存条件の改善を図ろうとするものです。観光資源なども世界遺産として登録され始めているのもその流れのひとつです。日本においてもここに紹介したように観光資源を含め多くの「地域産業資源」の指定を行いながら、持続可能な産業活動の方向性が模索され始めています。ケナフの指定がより幅広いケナフ協議会の活動につながり、将来の世界環境の改善にもつながるようないろいろの産業活動の進展にも寄与できることを切に願っています。

(参考データ等)

- 1) 2007年6月施行の地域指定を受けると新ビジネス創出のための様々な支援措置が受けられる資源法（中小企業地域産業資源活用促進法）「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律（平成19年法律第39号）」第4条第1項に基づき指定される。
- 2) 「地域資源」とはその地域ならではのリソース（産業資源）のことで、3つに区分されている。①農林水産物、②産地の技術、③観光資源
- 3) 高久俊秋氏から連絡を受けた情報は、平成29年4月19日、福島県産品振興戦略課が公表した「新たに追加した地域産業資源」26件のリスト。農林水産物10件、工業品または工業品の生産に係る6件、文化財、自然の風景地、温泉その他の観光資源10件、が追加指定された。ケナフは農林水産物の追加10件のひとつとして指定された。
- 4) 福島県のホームページには平成29年4月19日付けでの26件の追加を含めて、福島県知事による「地域産業資源活用事業の促進に関する地域産業資源の内容の指定」の全体がPDFで公表されている。こちら同日の平成29年4月19日付けである。総数は①農林水産物→96件、②産地の技術→60件、③観光資源→201件。ちなみに、ケナフは①に、喜多方ラーメンは②に、鶴ヶ城は③に指定されている。

(Kazuhiko Sameshima, 170524)